

【第117号 二〇一四年 九月 五日発行】

福音の園だより

平成十八年度「高齢者雇用優良事業所協会会長賞」受賞

TBSラジオ『メイコのいきいきモーニング』取材放送

グループホーム・デイサービス介護保険事業者指定

350 0016 埼玉県川越市木野目一八七八番地一

特定非営利活動法人 福音の園・埼玉 事務局

〒0049 230 1111 FAX230 1112

福音の園® Gospelgarden® は有限会社シャロンの商標

「敬老の日」に寄せて 理念・方針説明

福音（聖書）に基づいた「希望」の園

グループホーム 福音の園・川越 ホーム長 杉澤 卓巳

『確かな支援技術に基づいた「優しさ」と、福音聖書に基づいた「希望」をお届けできるように、職員一同専心してまいります』と、折に触れて表明しています。「福音」を看板に掲げる根拠「福音聖書」に基づいた「希望」の真意について解説いたします。

ある家族がデイサービス利用開始に際し、担当者へ注文しました。「自宅玄関前には施設送迎車を停めないで欲しい。医者のお親が認知症になって老人ホームへ通っていると近所に知れたら世間体せけんていが悪くなるから！」 25年前、高齢者福祉の現場へ飛び込んで耳にして以来、心に刻み込んだ言葉。

親族・身内を含め周囲に対する体面や体裁が「世間体」の正体。介護サービス事業者である私たちは、こうした現実を目を逸らすことなく、しっかりと受け留めさせていただきま。ここに「心に触れる」具体的な「優しい支援の実践」があるから

です。地元の美容師さん来訪『床屋さんの日』。かつて入居された方の家族が「ご本人 具合が悪くなり入院中」と周囲へ説明していると美容室来店客が話していたと美容師さんが打ち明けてくれました。介護現場が受け留めなければならぬ、これも現実。

郷土 新潟県人に「良寛」がいます。今から230年前前、出雲崎町の大きな庄屋に長男として誕生。やがて出家し 曹洞宗の仏門に入った。全国を行脚

あなごやした後、晩年を郷里で暮らした禅僧・歌人。やがて寝たきりになり、シモの世話や食事介助を受けながら生涯を終えようとするときに『表を見せ、裏を見せて 散るもみじ』という辞世の句を遺した。自らの意思に反し、否応なく見せざるを得ない裏の部分も含めて、信奉する仏様がこの身の一切合切、全部を受け留めて下さっているという覚悟の言葉。

私は「良寛 辞世の句」を高齢者福祉における基礎にしてまいりました。バリバリ働いた表の部分だけでなく、病み衰えて人前には出たくない、見られたくない。出来れば隠したい裏の部分も見せざるを得ないという厳粛な現実に向直します、例外なく。

世間体と云う「呪縛」から解放されて

福音聖書は「神は、その独り子をお与えになったほどに、この世（この私）を愛して下さった」と告

げています（ヨハネの福音書三章16節）。ここで云う「私」とは「ありのままの私」です。自らの意思に反して否応なく見せざるを得ない裏の部分も含めて、福音聖書が告げる神さまはこの身を全部受け留めて下さっている。愛して下さっていると云うのです。

どこかインテリ・高尚な、お高くとまっていると云うイメージを「福音聖書」が持つ語感の響き

から感じられるかもしれません。本当は真逆です。福音聖書は「イエス・キリストは私たちの一番醜いところにおいて、私と一つになり、あなたと一つになって下さるお方なのです」と告げています。私たちは、「体面や体裁から解放されて、自由にお世話させていただく介護サービス事業者を目指したい」と苦心しながら現在に至りました。福音聖書に基づいた「希望」は、体面や体裁（世間体）という「呪縛」から解き放つことができるかと観ています。

「福祉は普段の暮らしの幸せ」

老親を入居させ「ハイ、サヨナラ」では困りますが、「親を施設へ預けてしまった」という負い目からも解放され、「お陰様で、自宅で面倒見るよりもかえって元気になりました！」と安堵していただけること。それと共に、例えば、「嫁」の立場ゆえの世間体と云う「呪縛」からも解放されることを心から祈念しています。

「高齢者福祉の向上に寄与したい」と有志が結集しNPOを設立。そして、「グループホーム福音の園・川越」を開設しました。社会福祉の向上に寄与できるとしたならば、様々なしがらみから解放され『福祉は普段の暮らしの幸せ』と云うお気持ちになっただけのことだと認識しております。



開園10周年記念バザーのご案内

日時 10月11日(土)、9時半～11時半

場所 福音の園・川越 一階食堂ホール

来訪歓迎

ボランティア体験プログラム

御礼

スイートコーン・メロン・スイカ

様 町

農園様 北海道